

活彩!保健大学だより

AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

第8号/平成15年7月15日発行 青森県立保健大学広報誌



平成15年度入学式

平成14年度卒業式

CONTENTS

学長挨拶	2	学生自治会・サークル活動紹介	16
新入生歓迎挨拶	3	大学院紹介	18
新入生のことば	5	教育センター・研修センター紹介	19
上級生のことば	8	禁煙キャンペーン/性教育講演会	20
新入生合宿研修	10	進学相談会・オープンキャンパス記録	22
卒業証書学位記授与式及び関連事業	12	人事異動	23
卒業生からのメッセージ	14	大学院及び学部編入学のお知らせ	24
就職関係報告	15	編集後記	24

大学4年間の総括と今後の大学について

青森県立保健大学
学長
新道 幸恵



本学は、過去10年以上にわたる、県内の関係者の方々の熱い願いの基に、平成8年から準備室が設けられ、平成11年4月に青森県の保健医療福祉の向上を目標にした施策の一貫として開学したことは本学関係者には周知のことと思います。

近年、少子化による大学進学人口の減少と大学の門戸拡大による進学率の増加を背景として、大学間の競争の激化や大学への全入学への方向性が論議され始め、大学改革の必要性が主張され始めました。幸いにして、本学では、それらの議論を開学準備に大いに活用することができました。本学の開学に当たっては、県の施策方針の基に、大学を取り巻く社会情勢を考慮して大学の構成、組織、理念・カリキュラム等を準備してきました。健康科学部の1学部に見護学科、理学療法学科、社会福祉学科の3学科構成とし、保健医療福祉の連携・協調を大学の理念の一つとして発足しました。また、付属施設として健康科学研究研修センターが設けられました。

本学は教育理念の中核として豊かな人間性と高度な専門性を備えたヒューマンケアを提供できる保健医療福祉の人材育成をあげています。その理念の実現に向けたカリキュラムの特徴をあげますと、①教養教育を人間総合科学科目として編成し、教養ある豊かな人間性の育成を目標にした科目群の設定、及びグローバルゼーションへの対応として語学教育や情報リテラシー教育の重点化、少人数教育による課題発見学習を通しての主体的学習者への動機付け、②保健医療福祉の連携・協調を目標にした3学科の合同の講義・演習、実習の設定、③くさび形カリキュラムによる入学早期から専門科目の設定、④高度な判断力に基づく実践能力の育成を目標にした学生の学習進度を考慮した科目設定、例えば、1年次から4年次までの各年次における実習科目の配置、等が挙げられます。

カリキュラムの実効性を高めるために、有能な教職員の確保、視聴覚設備や教材の整備、図書館の閲覧時間の延長、情報システムの整備、臨地教授制度やユニフィケーションシステム（保健医療福祉の実践の場の専門職と本学教員の実践レベルの組織的交流システム）等を開学準備期から完成年度に至るまで努力してきました。

健康科学研究研修センターは、研修開発科、研修科、国際科の構成による組織とし、本学の理念の1つである地域社会への貢献に向けた活動に重点を置き、それなりの成果を上げてきたと思っています。研究開発科では学内の教員を対象とした競走原理による研究費の配分をして、地域の実践の場の問題に焦点化した研究を奨励してきました。具体的には、実践の場の専門家との共同研究を支援したり、保健福祉行政課題研究として生活習慣病、高齢者の保健福祉問題、児童虐待問題、乳幼児死亡率の要因分析、雪国の健康問題などの研究支援をしてきました。研修科では研究開発科における研究成果の普及を目標とした研修会を本学或いは県内の市町村に出向く「出前講座」として実施してきました。国際科では国を越えた交流の円滑化の第1歩としての異文化理解を目標にした活動として「ミニシンポジウム」を開催する一方で、県の国際科の依頼を受けて中国からの研修生を受け入れてきました。

開学5年目に当たる今年度に、大学院修士課程の発足と、健康科学研究研修センターの改組による健康科学教育センター及び健康科学研究センターの発足が実現できましたことは本学の今後の発展の礎となる大きな出来事といえましょう。

本学は、県立の大学として県民の方々に親しまれ、見守られる大学として、地域貢献に力を入れながら、学生中心の大学として、今後ともに努力していくつもりです。



楽しい夢を持って!

—「専門分野」プラス「言語運用能力」向上を目指して—

人間総合科学科目
教授
赤坂 和雄



大学も始まり新入生諸君にとっては、大学とはどんな所で、どんなことをするのかといったことがおぼろげながらも理解してきた頃かと思います。初めて家族を離れアパート住まいでさびしい生活を送っている学生も多いと思います。でも、授業が忙しくレポート提出などでホームシックになる時間がないと嘆いている学生もいることでしょう。そうこうしている内に、大学生活にはいつの間にか慣れていくものです。

大学では専門職になるための勉強ばかりではなく、一人前の社会人、国際人などになるための広い意味での学問を学ぶところでもあります。そういった意味で当大学では人間総合科学科目を配置し、何よりも重要な科目として人間総合科学演習(ゼミナール)があります。入学してきたばかりの学生が出来るだけ早く、担当教授や大学生活に馴染めるような心遣いで少人数教育に力を入れた授業です。このゼミナールでは皆さんにとっては初めての論文を書かなければなりません。大学在学中は色々なレポートや論文作成などが義務付けら

れています。他の教員は勿論のこと先輩や後輩が読んでくれるであろうこの論文は、みなさんにとって初めての本の形態を整えた立派な論集になります。出来上がった論集を手にする時の気持ちを想像してみてください。完成までにはつらいことがいっぱいあるでしょうが、苦しんで完成した時の気持ちを十分味わっていただきたいものです。

すでにわかってきたことではありましようが、当大学は英語に力を入れております。英語力をしっかりと身につけ、将来の働ける職場の世界を広げてもらいたいと願って大学が開学されました。英語力があれば働く世界は日本だけではなく無限に広がります。英語を公用語としている65カ国があなたの働く世界として手を広げ、あなたを待っているかも知れません。

英語の学習にはこれで完成ということはありません。恐らく死ぬまで英語の勉強が続くことでしょう。当大学の多くの先生方が、筆者も含め、もっと英語力を身につけたいと願っているのは事実です。これでいいということがないからです。学生諸君は同時にしっかりした日本語力もつけなければなりません。

この大学4年間で、「専門分野」プラス「言語運用能力」を目指し、世界に通用する人間形成に励んでもらいたいと強く願うものであります。



皆さん、 努力していきましょう

看護学科
助教授
藤井 博英



新入生及び保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。私は看護学科で精神看護学を担当している藤井博英です。皆さんは、看護学、理学療法学、福祉学の勉強をこれから始めていくのですが、いずれの領域でも、対象者の“話を聞くこと”が非常に大切なことあり、講義で勉強していくので、ここでは講義では聴けないことをちょっとお話ししていきたいと思います。

青森県には、下北半島や津軽地方に、身体に神仏が憑依し、予言や占い、治療行為などを行う「イタコ」、「ゴミソ」、「カミサマ」という名称のシャーマンが存在します。特に本県では、病院受診と同時にシャーマンに相談をする人が多くいらっしゃいます。私が研究した結果では、慢性疾患を持っている670人の方々を調査したところ、「イタコ」・「カミサマ」を訪れた経験がある人は232名(34.6%)であり、イタコを訪れる人々は、病院での治療、薬や処置について特に不満があるわけではなく、悩み事や話を聴いてもらうことによって心が癒されたと話しています。

このことが示唆することは、新入生の皆さんがこれから学んでいく看護学・理学療法学・社会福祉学において、対象者の“話を聴くこと”の重要性を示すものであって、これは“癒し”に通ずるともいえると考えます。

皆さんは、聴くことに意識的に努め、自らを成長させ、人々を癒して下さい。“努力するもの迷い続ける”は、ゲーテの名言であります。皆さん、努力していきましょう。

理学療法学科新入生 歓迎

理学療法学科
助教授
山下 弘二



理学療法学科に入学のみなさん、おめでとうございます。平成15年度新入生の担任になります山下です。よろしくお願ひします。

さて、私のやっていることを少し紹介させていただきます。私は12年くらい前から保健所が主催している「呼吸教室」で呼吸理学療法の指導を行っています。呼吸教室では、慢性呼吸不全患者さんを対象に呼吸法と呼吸体操などやっています。「なぜ地域でこのような指導をするんだろうか?」。また、慢性呼吸不全患者さんでは、在宅で酸素を吸入しながら生活できるようになった。このような酸素吸入している患者さんでも運動をしているのか、「何でするんだろうか?」。さらに、脳卒中などで寝たきりの高齢の患者さんに対して体位変換とともに呼吸の介助が重要となっています。「何で呼吸介助をするのだろうか?」。しつこいようですが、授業や実習では「なぜやるんだろう」、「なんでだろう~なんでだろう?」という姿勢や考え方が大切になります。

私の場合は、卒業直後から呼吸障害に対する理学療法に興味をもってやってきました。みなさんも卒業までに何か興味のある教科や分野をみつけて発展させていってください。きっと理学療法がおもしろくできるようになると思います。これからの4年間で有意義にすごされることを希望しています。



共に、学びつつ、 歩みつつ

社会福祉学科
講師
千葉たか子



この数年、インド国西ベンガル州に関わっている。州都コルカタを離れた農村地帯には、カースト制度にさえ属さない少数民族が住んでおり、彼らの生活はとても厳しい。村に入る度に、「直ちに何かをしなければならぬ」という思いに駆られる。しかし、私が両手に持って日本から運べる物資には限りがあり、またその物資を彼らに配ることは問題解決にはならない。

女性、子ども、高齢者、障害者、少数民族など、いわゆる社会的弱者と呼ばれる人々が困難な状況にあるのを見たとき、手を差し伸べたいと思うのは人の自然な感覚である。ならば、その差し伸べる手は、有効に機能するに足る技術を持っていないければ、問題解決に寄与しない。

いつの時代にも、どこの文化にも、お互いやりくりがつかないときには融通し合う相互扶助の習いがある。それが、福祉という行政のサービスにとって代わられた。対価価値があるサービスならば、素人とは歴然とした差のある良質のものを提供できなければならない。私たちは、教育機関において、より優れた技術力を磨くことができる。そして、より適確な判断をする力を育てることができる。

だが、最後はやはり「人」である。より優れた技術力をより適確に使う判断力を磨きつつも、「ぬくもり」のあるまなざしと「さわやかな」ふるまい、そして「たおやかな」ところを守っていくことを忘れたくない。

差し伸べる手と、その手を受けとめる人々の手の重なりから、こころが響き合って共に生きていることを感じ合う。

そのような関わり方をみんなで一緒に学びつつ、歩いていきたい。

保健大学に入学して

看護学科
1年
山本 美沙



私は小さい頃から母に憧れ、看護師になりたいと考えていました。高校に進学し、病院の中に訪問看護ステーションが増えていることを知りました。私はこの訪問看護に興味を持ち、将来的にはそこの看護師として働いていきたいと思うようになりました。そこで、絶対この大学で看護師になる勉強をしたいと思いました。

そして、今この大学に入学して2ヶ月が経ちました。4月は授業についていけるのかとかちゃんと一人暮らしができるかといった不安でいっぱいでした。

しかし、実際大学生活を送ってみると、今まで勉強したことがない分野や、医療について詳しく勉強できる内容ばかりでとても新鮮です。医療関係の授業は大学にきて初めて深く学び、物事に対する新しい価値観を持つことができました。また、授業の中で職場に出てから必要となる看護技術の基礎を学び、看護師としての自覚について考える機会が増えたと思います。そして、今まで私は看護師というのを漠然と考えていましたが、講義や演習を受けているうちに看護師のあるべき姿が徐々に見えてきた気がします。

私は今、週に2回バスケットサークルに通っています。サークルの先輩は大学生活のことや一人暮らしのことなど話をしてくれます。そのため、今の自分にはとてもいいアドバイスになっています。

自分はまだまだ看護という領域に踏み入れたばかりですが、4年間の講義や演習、実習を通して、自分の物にできるものはより多く吸収していきたいです。そして、卒業後実際に訪問看護ステーションや保健所などの地域看護に携わっていきたいと思っています。



保健大生として

理学療法学科
1年
清野 貴子



4月7日に緊張の入学式を終えずで2ヶ月が経ちました。私は追加合格だったので、3月28日に奇跡的な合格の電話をもらうまでは保健大への入学はあきらめ別の道へ進む準備をしていました。そんな私が今こうして「新入生挨拶」の原稿を書いているのは本当に不思議です。自分の進みたい大学に入学できた喜びを感じ、今は毎日をせいっぱいがんばりながら過ごしています。けれども大学生活はやることほとんどが初めてのことで、最初はとまどうことが多かったように思います。

なんといっても一人暮らしを始めて最初の1週間は、一人のさみしさに耐えられず一人暮らしがこんなにさみしいなんて……と想像していた一人暮らしとのギャップにうちのめされていたりもしました。そしてあらためて親のありがたさを知るとともに、自分の幼さを痛感しました。今は一人暮らしの生活にもだんだんと慣れてきて、少しは成長してきているのではないかと思います。

授業ではテストやレポート・発表なども増え1日1日がとても忙しく、早く過ぎていきます。解剖や生理学などの専門分野の勉強は覚える事が多く、1回授業をするたびに脳みそがフル回転しっぱなしです。けれどもやはり自分が興味を持っている分野の勉強なので楽しく毎日学んでいます。

理学療法学科は20人と他の学科に比べて少ないですが、その分1人1人との結びつきを強くして、生涯つきあっていけるような仲間になっていけたらなあと思っています。皆いい人ばかりで個人的でおもしろく、最高です。入学して皆に会えたことはすばらしいことだと感じています。そんな仲間とこれから後約4年間一緒に、さまざまな人と触れ合い、たくさんの知識をつけて保健大生として立派に成長していきたいと思っています。

保健大学に入学して

社会福祉学科
1年
五十嵐智孝



大学に入学してから、早いもので2ヶ月がたちました。この2ヶ月を振り返ってみると、これまでの生活とは異なることばかりで、新鮮で期待を抱きながらも緊張・不安・驚きの連続であつという間に過ぎていったように思います。

しかし、そのような中で少しずつ保健大学の事や大学生活の事がわかってきたし、ほんとにごくわずかだけれど社会福祉のこともわかってきました。保健大学は見た目も中身もきれいで、緑に囲まれていて、開放感もあり、コンピューターなどの設備もきちんと整っていて、恵まれた環境で授業に励むことができます。授業では特に英語に力をいれているので、高校までとは違ったネイティブによる生きた英語を学ぶことができます。そして社会福祉の専門の授業では、将来に役立つような質の高いものが多く、将来を見据えた心構えがきちんとできるので、自分なりに常に目標意識をもって取り組むのは勿論のこと、広い視野をもって物事を捉えていきたいと思っています。

また、大学生活はそれぞれに自由があります。自由な時間を勉学・サークル・バイト・遊びなどに費やすこともできます。しかし、自由があるかわりにそれぞれに責任もあるのです。私はつい自分の興味のあることや魅力のあることだけに流されがちでバランスをとることが苦手なので、がむしゃらに前に進むのではなく時には振り返って軌道修正をしながら日々を過ごしていきたいと思っています。

最後に、保健大学は開校してまだ5年目です。私は個人が協力し合えばこれからまだまだ成長していける学校だと思います。そして、色々な新しいことにチャレンジしていけるとと思います。ぜひ私もその中の1人に加わりチャレンジして日々成長していきたいと思っています。



保健大学に入学して

看護学科3年
(編入学生)
奈良 尚美



「・・・」これがインターネットで合格を知った時の、私の反応です。2、3回アクセスし直して何度も自分の受験番号を確認し、その上数人の友人にも自分の受験番号があることを確認してもらいました。本当に自分の合格には驚き、そして嬉しかったです。

あれからもう3ヶ月、この大学に入学して2ヶ月が過ぎようとしています。私がこの大学に編入したいと思ったのは、将来自分の町（板柳町）に訪問看護ステーションを開くために、地域看護をもっと勉強したいと考えたからです。この2ヶ月間、看護の講義はまだ少ないですが、これから始まる地域看護についての講義を今からとても楽しみにしています。

この大学に入学して最初に得たものは、9人の編入仲間です。仲間たちとの学校生活を少し紹介します。9人それぞれ個性が強いため、休み時間の会話はほとんどコント状態、いつも何について話していたのかも忘れるほど笑い、そして笑いすぎて腹筋が痛いです。それに反して、講義にはみんな真剣に出席しています。よく遊び、よく学んでいます。出会ってから2ヶ月しか経っていないにもかかわらず、仲間たちに身体的・精神的ピンチを何度も救われました。本当にその時、あの時は助けられました。とても頭が下がる思いです。9人しかいないため、とても濃い関係になりつつありますが、とても大切にしたい仲間たちです。これらの2年間、仲間と共に切磋琢磨しながらがんばりたいです。

私は青森県が大好きです。大好きな地元青森県で看護について学べる喜びを感じながら、日々の生活を大切に過ごしていきたいと思っています。

限りない知識の海の中へ

大学院：
健康科学研究科
1年次
櫻野 陽子



「大学院、入ってみたい？」

理学療法の専門学校を卒業して、病院勤務。よくあるパターンだ。特に大事もなく、臨床での経験は増えていく。卒後教育としての研修会や、特定の分野における勉強会等、技術の研鑽に励んできたつもりではあったが、まとまりがつかない。そんな時に言われた言葉であった。知らない事が多すぎる。何を知らないのかさえ知らない。混沌としていた中で、大学院に入学する事が突破口になるのではないかと考えた。カオス的な我々人間。ランダムに見えるものが実は秩序的であったりする。人間を相手にしている以上、無限に広がる事象を紐解いていきたい。科学的根拠に基づく医療、効果的で効率的な医療が求められる今だからこそ、物の考え方を身につけたいと強く感じる。今までは仕事があるから時間に余裕がないと思い込み、深く考えるという事を怠ってきた。時間は自らが作るもの。入学後に始めて分かった事であった。確かに昨年と比較すれば忙しいと言えるであろう。しかし、生活そのものが充実してきている。あいまいに濁してきた事柄を調べ、深く追求し、理解できた時の喜びは何事にも代えられない。敬遠してきた分野が実は非常に興味深いものであったりもする。一方的に教えられるのではなく、積極的に学びながら限りない知識の海の中へ誘われていく。今、膨大な知識の世界に身を投じて、考える事の楽しさを実感している。それと同時に学生になった事で勤務との兼ね合い、両立の難しさを感じる事となった。周囲の理解と協力が得られなければ実現不可能であったであろう。いかに現在の環境が良かったか、感謝の念を忘れずに地域社会へ貢献できる医療人へと成長したいと考えている。



新入生のみなさんへ

看護学科
4年
佐藤かおり



新入生のみなさん、入学おめでとうございます。在校生一同、皆さんの入学を心より歓迎します。私も3年前は皆さんと同じように新しい生活が始まることへうれしい反面、不安でいっぱいだったことが、ついこの間のことのように思い出されます。

私がここで話すことは、皆さんよりも少しだけ長く大学生活を送るものとして、感じたことです。参考になれば幸いです。

まずは健康管理。勉強するも、遊ぶも、バイトするも、心身ともに健康でなければ満足にはできません。寝る時は寝る、食べる時は食べる、やる時はやる。メリハリをつけた生活で体調管理をしてください。

次にどんな小さなことでも、勇気を出して挑戦すること。上手くいなくても、今の自分の力を認めればよいし、そのプロセスで得るものは必ず自分の糧になります。そして諦めずに再挑戦してください。

それから自分のペースを崩さないこと。一人一人が違う人間で、それぞれのペースがあります。他人との違いを認め、尊重しつつ、自分を大切にしてください。

そして青森は雪も多くて、寒くて、車がないと不便ですが、山あり海あり、いいところもたくさんあります。青森のいいところをどんどん見つけて好きになってください。

こうして簡単に言いましたが、私もいまだに満足にできないことが多々あります。問題にぶち当たり悩んだことも何度もありました。でも充実した3年間でした。この限られた学生生活をどうするかは自分次第です。これから色々な問題が出てくることもあるかと思いますが。そうしたら一呼吸おいて、まわりを見渡して、自分を信じて実行してください。皆さんの周りにはサポートしてくれる人がたくさんいます。安心して頼ってください。

皆さんが充実した学生生活を送れるように、そして活躍されることを期待しています。

ちょっと偉そうに…

理学療法学科
3年
小林 宏彰



新入生の皆さん、大学生活は慣れましたか？大学生活を楽しめていますか？考えていたよりも大学生活は面白くないと思っている人や、これからさらに忙しくなる中で、そう思う人もいるかもしれません。この大学は他の大学よりも授業や課題が多く、自由な時間はありません。だから、この大学生活を面白くないと感じることもありました。でも忙しいと思いながら、何とかこなしてきた2年間を振り返ると意外と楽しかったと思います。授業や課題の忙しさ、友達との関係、バイト、いろいろな場面で不満を感じることもありましたが、今はこういう経験が「人間性を磨く」ということなのかな、と思っています。忙しいと思っていた時には自分の限界が見えていたように思っても、実はもっとがんばれる自分を発見したし、そういう時の自分はだらだらと日々を過ごしている自分よりも輝いていると思います（自分で言うのも何ですが…）。

「楽しめる、楽しめないではなく、楽しむ！」とても難しいことだとは思いますが、僕はできるだけこういう考え方をするようにしています。勉強に嫌気がさしても、将来患者に関わっていく上で必要かもしれないとか、自分とは合わない人がいても、この人はなぜこういう考え方をするのだろうというように、興味を持つようにすれば、嫌なことも少しはましに感じられると思います。それでも、どうしてもダメな時は周りの友達や上級生に愚痴をこぼせばいいと思います。基本的に保健大生はみんないい人なので（僕の周りだけかもしれませんが…）、きっと力になってくれると思います。

なんだかんだと偉そうなことを言ってきましたが、書いてきたことが一番いい方法とはいえません。でも、ちょっとでも参考にしてくれたらうれしいです。



新たな未来へ

社会福祉学科
2年

山崎 聡美



新入生の皆さんご入学おめでとうございます。入学式に校歌を演奏して皆さんを歓迎したのですが、皆さんの胸にはどのように聞こえましたか？ 実をいうと私は保健大学の校歌についてほんの2ヶ月前に知ったばかりでした。楽譜を見て初めて気が付く箇所も少なくはありませんでした。中でも私の好きな歌詞は「いつの日か 誰かの「勇気」であるよう どんな時もずっと 忘れない 出逢えた奇跡を」というところです。私は、誰かの「勇気」になるということは保健大の学生にとってとても大事なことだと思います。保健・医療・福祉の現場では、あと一步勇気を振り絞れない人、誰かの支援を必要としている人に出会う機会は多くあると思います。そんな人達と一緒にになり自分が相

手の勇気を引き出す要因または勇気になることができればどんなにうれしいことでしょう。保健大学では誰かの勇気になる方法を学ぶ機会がどこよりも豊富にあると私は感じています。私もいつか社会に出たときに、「あなたがいたからできた、一緒に力になってくれたから勇気が出た。」と言われるような人間になりたいと思っています。また皆さんは大学に進学したと同時に新しい環境に移り変わり、そこで多くの新しい出逢いがあったと思います。そしてこれからも出逢いというのは生きていく限り続きます。私は今まで何度も後悔するような出逢いをつくり出してきました。あの時、なんで私は…。この校歌は私にひとつの出逢いを奇跡のように大切にしないではいけないと気付かせてくれるものでした。保健大学の校歌の題名は「新たな未来へ」といいます。保健大学はまだ開学してから間もない大学です。私達は新入生の皆さんと保健大学にいつまでも残るような歴史をたくさんつくっていきたいと思っています。そして校歌の通り、共に新たな未来へ飛び立ちましょう。



学内見学



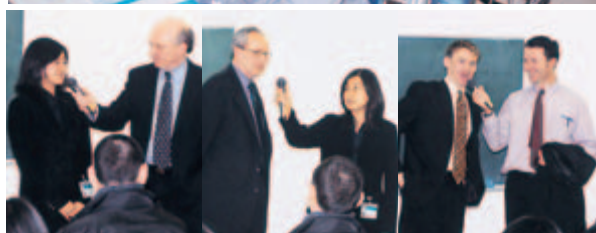
上級生による学校歌紹介

2003年度新入生合宿研修を終えて

新入生合宿研修実行委員会副委員長
社会福祉学科助教授 安田 勉

本年度も例年行われております新入生合宿研修が終わり、学内は講義をはじめ様々な活動が始まり活気に溢れています。自分の任を果たし終えホッとしているところですが、実行委員長の石鍋先生より依頼がありましたので、実行委員会の一員として、合宿研修の報告をさせていただきます。以下、第1日目の全体オリエンテーション、人間総合科目オリエンテーション、禁煙セミナー、各学科のオリエンテーションそして専門職へのいざない&相談コーナー、2日目のレクリエーション大会の順で報告致します。

全体オリエンテーションは、副実行委員長・前野先生の総合司会で始まりました。石鍋実行委員長より本研修の目的を含めての開会のあいさつ、次に中村学部長よりあいさつがありました。入学して5日目という事もあり、新たな友人と一緒に着席する学生が多く、静かな中にも研修への期待を伺わせるようなまっすぐ前を見る姿勢、そして笑顔を見せる学生の多いことが印象的でした。



イングリッシュコミュニケーションの先生方

人間総合科目オリエンテーションは、実行委員の井澤先生の司会で自己紹介が行われました。先生方のユーモア溢れるお話、特にイングリッシュ・コミュニケーション担当の先生方のやり取りに会場が笑いでいっぱいとなりました。和やかな雰囲気の中で「禁煙セミナー」が続いて行われました。今年度の本学の中心的な取り組みである「禁煙キャンペーン」について佐藤正昭学生部長より説明があり、続いて看護学科の大関先生にお話を頂きました。パンフレットやパワーポイントを用いた具体的なお話に、学生は真剣に聞き入っていました。喫煙行為の恐ろしさを再確認したようです。

ここで全体オリエンテーションを終え、学科別のオリ

エンテーションへ移りました。各学科に分かれて自己紹介などが行われました。夕食後は学科ごとに趣向を凝らした「専門職へのいざない&相談コーナー」です。ここでは、在学生の協力のもと、和気藹々と進められました。その様子は、各学科の実行委員(看護学科・高橋先生、理学療法学科・前野先生、社会福祉学科・安田)に報告頂きました。

<看護学科>

今年の看護学科は、積極的にボランティアとして名乗りをあげてくれた学生達に、自分たちの経験を通して企画・運営をしてもらいました。「カリキュラム&授業内容」「サークル」「実習」「新生活」「専門職(保健師・助産師)」「学部長と語ろう」「先生たちと語ろう」の7つのコーナーができあがりました。それぞれのコーナーで先輩達が説明して学生から相談を受けたり、先生方にお話してもらったりしました。各コーナーに15脚ほど椅子を準備していましたが、それだけで足りずに椅子を足してサークルが大きくなったり、2つのサークルに分けて行うコーナーもあったりと、大盛況でした(ところによっては、まるで合コンの一幕を見るようなコーナーもあったり…)。

新入生の皆さんは、いろいろなコーナーをくまなく回った人もあれば、興味のあるところでじっくりお話しする人もあり、様々でしたが、同級生だけでなく先輩や先生方との距離も近づき、不安もかなり解消されたのではないかと思います。

それぞれのコーナーで熱く語っている先輩達の姿がとても頼もしく見えました。

なお、同じ研修室で、人間総合科目のコーナーもありました。先生たちとお話するコーナー、ビデオコーナー、英語の講義についての相談コーナーなどありました。人間総合科目のオリエンテーションでのアラン先生のパフォーマンスですっかり緊張が解けたのか、頬を赤らめながら英語でコミュニケーションをとっている新1年生がとてかわいらしく見えました。



看護学科

<理学療法学科>

本年度の「専門職へのいざない」は、フリートーキングを主体に、5ヶ所に分かれてそれぞれ自由なセッションを行いました。昨年度までは、学科長以下各セクションに分かれて、専門職について新入生に熱く語っていましたが、キャンパスライフのHow Toを含めたより多様な質問に応えるために、本年度より試みとしてこのような形式をとりました。新入生からは「働く場所として将



理学療法
学科

来病院と地域のどちらの比率が高いか？」などの高度な疑問に答えていました。

今回は更に、教員に加え、5ヶ所それぞれにアドバイザーとして上級生が入り、新入生からのさまざまな疑問に答えていました。試験の難易度や単位の取り方から果ては過去問の配布方法など、教員に聴かれてしまうと微妙な質問もありました。また、時にはご指名により、教員が席を外さなければならないような素敵な？恋のお悩み相談もあったようです。今回は、先輩と新入生の交流という点で概ね学生にも好評なコーナーとなりました。

＜社会福祉学科＞

今年の社会福祉学科は、昨年とは異なり各コーナーの相談内容を限定せず、なんでも相談コーナーとして「教員なんでも相談コーナー」3箇所、「先輩なんでも相談コーナー」そして「授業履修相談コーナー」の計5ヶ所を設けました。講義が始まって間もないこともあってか「授業履修相談コーナー」が大盛況でした。一人で来るといよりは何人かでの相談がほとんどでした。合宿研修を通しての交流がうまく行ったのではないかと胸をなでおろしています。例年のような就職や青森の事については少なかったようです。コーナーの設け方は再検討が必要かもしれません。

二日目は全学交流レクリエーション大会です。このプログラムは、在学生を中心に企画運営して頂き、報告は、学生実行委員の友友隆幸さんをお願いしました。

社会福祉学科



相談コーナー

＜全学交流レクリエーション大会＞

まず初めはサークル紹介が行われた。各サークルは趣向をこらした紹介を展開していた。某ボランティアサー

クルでは手話を交えたサークル紹介を行い、新入生のみならず、上級生からも喝采をあげていた。新入生は自分が興味のあるサークルはないかとサークル代表者の声に耳を傾けていた。

次にレクリエーション大会が行われた。種目は例年通り長縄跳び、人間知恵の輪、綱引きが行われた。新入生を4つのグループに分け、その各々に上級生のリーダーを入れる形でレクリエーション大会が行われた。

第一種目は「長縄跳び」である。ここでは縄を回す男子学生の奮闘が印象的だった。みんなの呼吸を合わせるために大きな声で「せーの」の掛け声をかけていた。その掛け声でチームの回数が決まるといっても過言ではない状況にあって、男子学生は一生懸命に声を掛け、縄を回していた。

次は「人間知恵の輪」である。これは複雑に絡み合った人間の輪を対戦チームの代表者が解いていくゲームである。新入生にとっては初めて体験するゲームだったらしく、説明を聞いて戸惑っているようであった。しかし、本番となるとみんな複雑に絡み合い、その輪を解く人は悪戦苦闘していた。人間の輪を解かれると相手方のポイントとなるだけに輪のほうも必死に解かれまいとして、白熱の展開が見られた。

最後に綱引きを行った。チーム一丸となって縄を引く姿はとても懸命で、見ているこちらも両方のチームを応援したくなってしまった。

最後の種目も終わり、ぐったりしていたのはむしろ上級生のほうだった。新入生はリーダーが圧倒されるほど元気いっぱい積極的にレクリエーションに参加していた。新入生にはこの合宿で見たよう、これからの大学生活を楽しんでいってくれたらいいなと思った。

以上、日程にそって様子を報告致しました。合宿研修が新入生にとってこれからの大学生活の第一歩として役立てて頂けたのではないかと、報告を書きながら思っております。また教職員及び新入生の皆さんには「合宿研修アンケート」のお願い致しました。次年度に役立てたいと考えております。最後になりましたが、御参加、御協力頂きました教職員の皆さん、在学生の皆さん、そして実行委員会の皆さんに感謝申し上げます。報告を終わります。

サークル紹介



長縄跳び

【卒業証書 学位記授与式】

平成15年3月19日

この春、本学は開学満4年を迎え、第1期の卒業生154名に対し、新道幸恵学長からあたたかいお祝いのことばと共に、卒業生一人一人と握手を交わしながら、卒業証書・学位記が授与されました。



当日は華やかな袴姿やスーツ姿の学生が早くから大学構内に集まり、卒業生が自分たちで企画・制作した卒業記念アルバムに、賑やかに記念の寄せ書きを互いに書きあう姿が見られました。



この卒業アルバムの制作に係る経費の他、卒業関連事業の様々な場面で、後援会からの助成が充てられました。

式典では来賓としてお出で戴いた、県看護協会長、県理学療法士会長並びに県社会福祉士会長から卒業生にあててのあたたかい饒の言葉が贈られました。

また、在校生からは代表の理学療法学科3年、樋口大輔さんから栄えある第1期生の先輩達に送辞が贈られました。



在校生送辞
樋口大輔さん

これに対して卒業生を代表して、看護学科、大久保麗奈さんから、「人は誰でも、自分の中に何か輝くものを持っている。その輝きを見つけ出し、他人への気遣い、優しさを基盤に自分の輝きを失うことのないよう、新たな希望を胸に、それぞれの道を歩んで行きます。」との力強い答辞が述べられました。



卒業生答辞：大久保麗奈さん



最後に、第1期生から卒業記念品の贈呈が行われ、卒業関連事業実行委員の理学療法学科、折野美緒さんから新道学長に、樅の木2本の目録が手渡されました。



卒業記念品贈呈

式典終了後に、第1期生全員による同窓会の設立総会が開催され、規約の承認や役員を選出が行われました。

初代の同窓会会長は、社会福祉学科卒業の伊東由理子さんが選ばれました。

同窓会設立総会が終わり、会場の外へ出た卒業生に、待ち受けていた在校生が花束を持って駆け寄り、思い思いに記念の写真に納まる風景があちらこちらで見られました。



パーティでの一コマ

【卒業記念植樹】

また、第1期生から贈られた卒業記念の樅の木は、大学敷地内の講堂南側の小高い斜面に植えられ、6月2日の開学記念日にあわせて、同窓会役員を招いてお披露目の式典が行われました。

【卒業記念パーティー】

その後、青森市内の「青森国際ホテル」において、学生が全て企画・運営する卒業記念パーティーが開催されました。お世話になった学内外の先生方を囲んで、時間を忘れての歓談に華が咲きました。

記念パーティーやアルバム制作等は全て3年生と4年生の学生が組織した卒業関連事業実行委員会において自主的に行われました。出来上がった手作りの成果に、卒業式が終わった安堵感もあつてか、学生各位は感慨もひとしおといった様子でした。

新道学長と同窓会
副会長萬谷暁春さん



大学生活を振り返って……………

光陰矢の如し

大久保 麗奈
(看護学科一期生)



保健大学での4年間、それは、まさに「光陰矢の如し」という言葉そのものでした。講義、実習、レポートなどで、毎日がとても長く感じられていたのに、今、改めて振り返ると4年という月日は本当に短かったように思います。時には心の底から笑い、また時には深く悩み涙することもありました。一笑いがあり、涙があった。言いかえれば、とても充実した日々を送っていたといえます。

この4年間のうちに、様々な人達と出会えたことで、相手の生き方・考え方に共感し尊重することの大切さを学びました。また、一個人として、さらには医療に従事する者として、「人間」とは何かを考えることにより、自分と他者との違いを知り、自分自身の新たな人間性に気付くことができました。このことはこれからの人生において大きな意味を示し続けるものと思います。

保健大学で送った4年間は、これまで生きてきた22年間の中でも、とても重要な意味を持った4年間だったと思います。これから医療分野で働いていく上で、この4年間で学んだこと、感じたことを一つの基盤として、頑張っていきたいと思います。

大学生活を振り返って……………

私の大学4年間の 過ごし方

山中 友貴
(理学療法学科一期生)



3月に卒業して、4月から働き始めて早くも4ヶ月目に突入しました。完璧に仕事をこなして、毎日の生活に慣れましたと胸を張って言うことは出来ませんが、自分の出来る限りのことを精一杯やっている毎日です。

私が学生の皆さんに伝えたいことは、自分がやりたいと思うことや遊ぶことを100%、やらなければいけないことも100%やってほしいということです。ハメを外したり時間や寝不足も気にしないでメチャメチャできるのも、途方に暮れそうなくらい自分の知識を深めたり、時間を気にせず悩んだり挑戦できるのも学生のうちが最高だと思います。私はそうやって200%学生生活を満喫して送ってきたと思うし、そのことは私にとって自信を持って自慢できることです。これは、遠い近い関係なく私

の周りにいる多くの方々のお陰だと思えます。

大きなことは言えませんが、これからも保健大学で過ごした4年間で自信にして、仕事も息抜きも、社会人としてのマナーを心得て頑張っていきたいと思えます。

大学生活を振り返って……………

多くの出会いが 最大の財産

成田 貴子
(社会福祉学科一期生)



4年間の大学生活を振り返った時、印象深いのは電車通学です。実家のある岩木町から片道2～3時間かかり、雪や台風の日には大学に行けない日もありました。それでも家族の協力や友達の励ましのおかげで4年間通学できました。

大学は多くの出会いの場でした。私は現在、弘前市内の児童館で児童厚生員として働いています。大学在学中に保育士資格を取得できたため、目標であった児童福祉関係の仕事に就くことができました。保育士養成課程のない大学に在籍していても保育士になるチャンスがあると教えて下さったのは、ゼミ担当の大和田教授でした。もし、先生との出会いがなければ、私は現在の職業に就けなかったと思います。就職活動に関しては、私は大学関係者の皆様に多大なご迷惑とご心配をおかけしてしまいましたが、大和田教授をはじめ諸先生方、側で見守り支えてくれた友達の心強い支えのおかげで、今の私があります。私はひととの出会いに恵まれていました。大学生活で得た最大の財産です。多くの出会いとひとの心の温かさに、深く感謝しています。

また4年生の頃に強く感じたのが、とにかく「時間が無い」ということでした。

卒業論文の締め切りに追われているうちに年末になり、集中して国家試験対策に打ち込めるようになったのは国試2ヶ月前でした。焦りと不安に急かされ、寝る時間も惜しくて明け方に眠りについていて覚えています。

私は7～8月に保育士試験があり、夏休みも殆ど国試対策をせず周りからだいぶ出遅れていました。それでも、国試対策のゼミ合宿、直前講習や日頃の授業でご指導下さった先生方、一緒に教え合った友達の力もあり、無事国家資格を取得できました。(…これは奇跡としか言いようがない出来事でした…)

縁あって、追加合格という形で入学した保健大学で、私は一生大切にしていきたい多くのひと、もの、出来事に出会うことができました。保育士として福祉職の道を歩み始めたばかりですが、私を支えてくれている方々への感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思えます。4年間、本当にありがとうございました。

平成15年3月、本学初の卒業式が行われ、第1期生のうち154名が保健医療福祉分野の専門職として社会に巣立っていきました。

第1期生ということで、実績もなく、頼れる先輩もいないことから就職活動が心配されたものの、学生一人一人が真剣に取り組み所期の成果を得られたことは評価できるものと思います。卒業式における第1期生の誇らしげな表情を見て本当に嬉しく思いました。

今までの就職対策を振り返ってみますと、まず、次の理由により、第1期生の就職対策は就職対策専門部会を中心に全学体制で行うこととし、各種の事業を行いました。

1. 就職は人生における一大事であり、職業を通して自己実現を図る上で重要なこと
2. 本学が初めて社会に送り出す第1期生の就職状況は、保健医療福祉分野の人材育成を目指す本学にとっては極めて重要な課題であること

〈〈平成14年度の主な就職対策事業〉〉

1. 県内の病院・社会福祉施設に対する求人依頼のための訪問
2. 関係団体の会議に出席しての協力要請
3. 県内の病院・社会福祉施設の人事担当者との意見交換会の開催（弘前市、八戸市）
4. 学生と施設の人事担当者との直接面談を目的とした就職合同説明会の開催（本学内）
5. 模擬面接・小論文の添削指導の実施
6. 公務員試験対策講座を本学内に開設

以上の事業を中心に就職対策を展開しましたが、本学にとっては初めての就職対策事業であり当初は試行錯誤もありましたが、最終的には次のような結果を残すことができました。

【第1期生の就職率】

学科	卒業者(人)	就職希望者(人)	就職者(人)	就職率(%)
看護学科	98	93	93	100.0
理学療法学科	20	18	18	100.0
社会福祉学科	36	34	32	94.1
合計	154	145	143	98.6

全体の就職率98.6%は現在の大変な就職難の時代にあっては評価できる数字であるものと考えております。

また、第1期生に進路調査を行った結果、自治体病院・施設等の公務員志向が非常に強い傾向でしたが、就職者143名のうち58名が公的機関に就職できたことで、学生の希望に添う内容であったと考えております。

さて、現在は第1期生の卒業や就職活動の余韻を感じつつも、もう既にスタートした第2期生の就職対策を行っているところです。

第1期生の就職活動は先輩もいないことから不安を抱えながら手探り状態での就職活動でしたが、第2期生は第1期生の就職活動を参考に確かな目標を持って就職活動を行っています。

大学としても昨年度の就職対策を検証した上で、更に実効性のある就職対策を第2期生とともにすすめていきます。

「見える」活動を 目標に



自治会長 **大友 隆幸**
(社会福祉学科3年)

昨年度末に行われた選挙によって、自治会役員には私も含めて新たなメンバーが加わりました。役職別に、まず自治副会長には大山潮君と高橋玄央君(共に社会福祉学科3年)、書記には樋口加南子さん(看護学科3年)、会計には松田友美さん(看護学科3年)と吉成倫君(看護学科2年)、そして庶務に横川友紀子さん(社会福祉学科3年)が選出されました。今年度の自治会活動は私たちが中心となって進めていきます。

ここで私たち自治会の活動を紹介します。自治会の主な活動は、学生生活における意見を学生から広く募り、その意見を大学側に伝えて、改善に向けた取り組みをすること。それと各種大学行事に向けた実行委員の募集とその統括の役割があります。今現在(この原稿の執筆中)は10月に行われる大学祭の実行委員の募集をしています。

私たち自治会では『「見える」活動』を目標にこれからの活動を行っていきたいと考えています。具体的には自治会の活動内容をきちんと公表していきたいと思います。自治会は先生方で構成される学生委員会との話し合いの機会を今年度から設けていますが、その内容を随時学生の皆さんに伝えていこうと思います。そうすることで学生全体で問題意識を共有することができ、より充実した学生生活が営めるようになって考えています。

自治会活動については私たちもまだまだ未熟な点が多く、すべての要望にこたえるには難しい面があるのも事実だと思います。しかし少しでも学生の皆さんのお役に立てるよう、これから役員一丸となって頑張っていこうと思います。

武術サークル



社会福祉学科3年 **吉田 将司**
(顧問：八戸 宏講師)

私たちは、昨年まで「ブラジリアン柔術サークル」として活動してきました。今年度からはいろいろな要素の武術に取り組みたいと考え、現在は「武術サークル」として、中国武術をベースにした護身術に取り組んでいます。

私たちのサークルの目的は、武術に親しむことやメンバー間の交流を通して、楽しみながら体力の向上を図るということです。私たちの活動は勝負や競争を主眼としているものではありません。メンバー個々の意志に沿ってそれぞれのペースで活動を行っています。

活動内容としては、週1回体育館2階トレーニング室で活動しています。メンバーは今年5名を迎え入れて8名となり、経験者のメンバーが指導に当たっています。トレーニングを紹介すると、まず基礎体力の向上のためにランニング等を行い、ケガ予防も兼ねた柔軟体操を必ず行っています。そして呼吸法で全身の気を高め、基本練習では技(パンチ・キック等)の修得を目指して練習しています。今取り組んでいる護身術は、中国の「散打」という空手に似たスタイルのものです。

この新たな活動はまだ試行錯誤の段階です。メンバーのほとんどが初心者なので、まずは基本的な動きから練習しています。当面の目標としては、メンバーの安全管理を重視し、ケガなく活動することです。また、メンバーの要望を反映しながら楽しめるイベントも行っていきたいと思っています。

大学院(健康科学研究科・修士課程)が開設

大学院健康科学研究科長 新道 幸恵

1. 第1期大学院生(25名)入学

本学の大学院は、本学の学部の完成年次に引き続いて本年4月に開設されました。現在、25名の大学院生が昼と夜の講義、ゼミで熱心に勉学に励んでいます。

本年度入学院生の入学試験は、2月に行われ、36名の応募者があり、1.8倍の倍率でした。そのうち、県内出身者は84%を占めています。これは、県内の保健・医療・福祉関係者の向学心の高さを反映しているものと思われます。

2. 本学大学院の目標

今日、保健・医療・福祉分野では、介護保険制度の導入、医療保険制度の見直しなどの中で、大きな改革の時期にきています。

こうした中で本学大学院では、より高度な専門性とこれら分野の専門職者間の有機的な相互連携、協同による保健・医療・福祉サービスを一体的、包括的に提供できる、幅広い学識と豊かな人間性に裏打ちされた実践的専門能力を備えた高度専門職業人の育成を目指しています。

3. 大学院の構成分野と領域の概要

本学大学院の構成は、図に示されているように、保健・医療・福祉に関わる広い理解と相互の連携の実現を目指して、関連する4分野14領域からなっています。**定員は社会人も含めて20名です。**

- ① **地域保健福祉学分野**：この分野は4領域で、老人や障害者などが地域で自立して生活することを支援するうえで必要な地域保健、精神保健、高齢者保健・福祉にかかわる専門知識と技能を総合的に学ぶことを目的としています。
- ② **看護学分野**：この分野は4領域で、看護教育・看護管理、成人・老人・慢性疾患に関わる生活支援看護に加えて、CNS(専門看護師)コースとしての母子看護と救急・重症看護に関するクリティカル看護などを学ぶことを目的としています。
- ③ **理学療法学分野**：この分野は3領域で、運動生理、老人・障害者の機能回復や生活支援を目的としたリハビリテーション技術やケアマネジメント等に関する知識・技能の習得を目的としています。
- ④ **生活健康科学分野**：この分野は3領域で、学部には無い分野ですが、国民、県民の健康の保持・増進に最も重要な1次予防としての食生活、栄養ケア、環境保健に関する深い知識を学ぶことを目的としています。

4. 平成16年度入学大学院生の選抜試験：

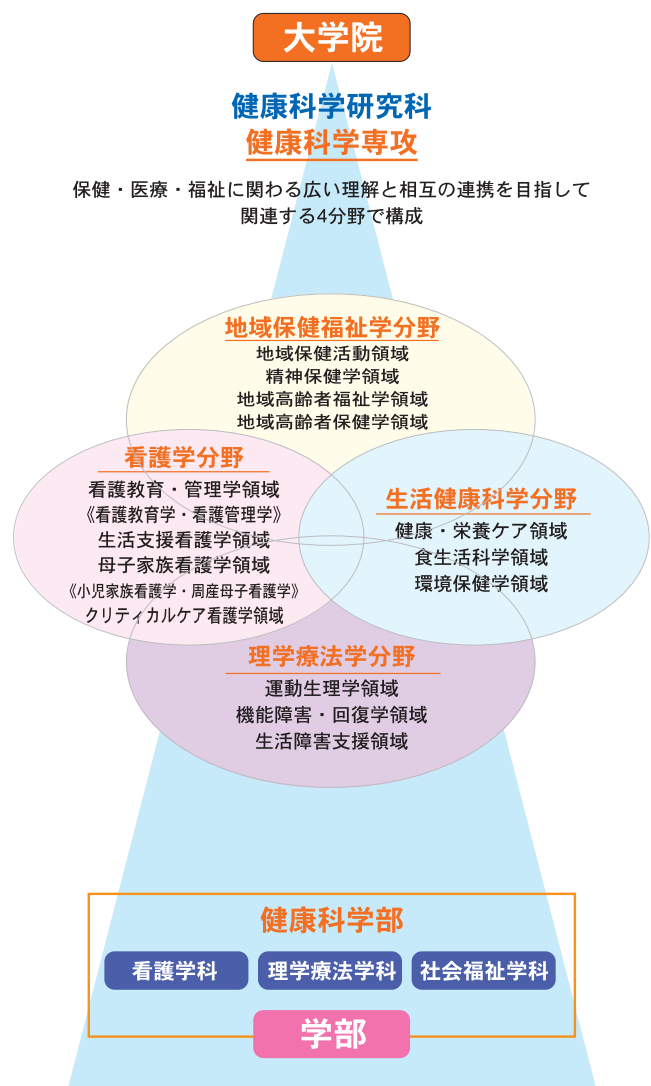
選抜試験は平成15年9月13日(土)です。

試験科目は専門科目、英語、面接で、社会人は英語の配点が低く、面接点が高くなっています。

大学院生募集要項は7月に公表されます。希望者は本学・教務学生課(電話 017-765-2144)までお問い合わせください。

5. 社会人の受け入れを積極的に考えています

短大や専修学校等の卒業生に実務経験等の要件を付加していますが、積極的に受け入れています。また、働きながら学べるように、昼と夜、隔週土曜日、夏季休暇、冬季休暇中にも講義を行います。



教育センターをよろしく

健康科学教育センター長 伊藤 日出男

本学では平成15年4月から従来の健康科学研究研修センターを再編成し、新たに教育センターと研究センターが誕生しました。教育センターには研修科（科長・石鍋圭子教授）と国際科（科長・リボウイツ・志村よし子教授）が設置され、すでに活動を展開しています。教育センター設立の目的は、大学内外の関係機関と連携を図り、グローバルな視点から本県の地域特性に即した保健医療・福祉分野の学際的、総合的な教育研修を推進することにあります。すなわち本学の保健福祉教育内容の向上を図りながら、地域の保健福祉の向上にも貢献することにあります。県民の皆様から愛される教育センターになるよう努力しますので、どうぞ宜しくお願いいたします。平成15年度の主な事業計画は次のとおりです。

<研修科>

- 1) 教育方法改善のための研究助成：本学教員に限らず実習施設等の学外関係者を含めた教育改善に関する研究課題に助成します（今年度は1件50万円を限度に6件程度）。
- 2) 県内の保健医療福祉専門職への研修会開催：専門職を対象とした公開講座の開催と本学教員が企画・実施する研修会を公募し助成します。
- 3) 出張研修会や講演会等への協力：主として本学教員が研究した成果を社会に還元する目的で、研修会開催や教材として役立つブックレットの出版をします。
- 4) 卒業生に対する調査と現任教育支援：就職後の意識調査と卒業後継続研修会等を実施します。
- 5) 辺地のケアマネジメント・システム構築への支援と共同研究推進：今年度は下北地域をモデルとして地域保健福祉専門職との共同研究を継続発展させます。

<国際科>

- 1) 外国の大学や施設等との交流や共同研究の推進：昨年に続き7月に韓国仁済大学校理学療法学科との学生交流を実施します。
- 2) 講演会、公開講座の実施：10月22日に「女性の権利と憲法」と題するゴードン・シロタ氏の講演会を開催します。
- 3) 海外からの研修・視察等の受け入れ：パラグアイの理学療法士、アフリカから保健福祉関係者の視察、研修等を受け入れます。
- 4) 地域支援事業：県内高校との交流会開催や英語検定試験(TOEIC)開催に協力します。
- 5) 本学の国際交流に係わる長期的なビジョンや中期、短期の目標構築：5年、10年先を見すえた行動計画を立て着実にすすめていきます。今年は国内外からの情報収集に努め、将来に向けての種まきの年とします。

健康科学研究センター紹介

健康科学研究センター長 嵯峨井 勝

1. 研究センターの目的

本学の健康科学研究センターは、青森県の地域特性に即した保健・医療・福祉の向上に寄与する研究を推進するとともに、本学教員の学術水準の向上を図り、その研究成果を県民の方々に還元することを目的として設置されています。

2. 研究センターの事業概要

本研究センターは上記の目的を達成するために、比較的大型の特別研究費目を設けて、教員の申請により競争的に研究費を獲得するシステムを作り、研究推進を支援しています。また、他大学や研究機関などとのネットワークの形成、学術研究集会の開催、研究談話会の開催および特別研究の成果報告書の発行などを行ない、研究成果の還元に勤めています。次に本年度の主要プロジェクトを紹介させていただきます。

3. 官学共同研究・「健康寿命アップ」プロジェクトを開始します

研究センターでは、青森県の平均寿命が男女ともに全国最下位である現状から脱却することを目的とした研究の一環として、今年度から県や地方自治体、保健所などの共同で、「健康寿命アップ」プロジェクトを立ち上げ、県民の生活習慣病予防に寄与する官学共同の調査・研究を推進することになりました。

研究の内容は2種類考えています。その一つは、すでに進行中のものですが、各自治体住民の方を対象に、高血圧の原因である食塩摂取量をどうしたら低減することができるかをPBL(Problem Based Learning)法という学習方法を取り入れて5回くらいの減塩教室で学んでいただき、どのように学ぶことで効果があるかを検討するものです。ここでは、初めと終わりの教室で尿中のナトリウム濃度を測定し、教室で学んだことの成果を評価することを研究テーマとしています。

二つ目は、各自治体住民の方のなかで、可能ならば住民検診等で高血圧、高脂血症、糖尿病および肥満などの検査指標がよくない方を対象として、血液サラサラ度や血清脂質成分などの本学研究チームの検診を受けていただいてからPBL学習法に基づいて、自主的な改善目標を決め、その後食事や運動の生活改善教室に参加して検査数値の改善に挑戦していただくものです。いずれも農閑期に、月に1回くらいの割合で教室に4～5回参加いただき、最後に初めと同じ内容の検診を受けていただき、教室で学んだことの効果があったかどうかを評価しようとする研究です。

禁煙キャンペーンに協力を

学生部長 佐藤 正昭

本学では、キャンパス全域を対象とする禁煙キャンペーンが4月1日から始まりました。ここに至るまでは、昨年度後半から様々な場で論議がなされ、学生自治会とも話し合いがされました。結果として学生便覧にも載せてありますように、保健医療福祉の業務に携わる専門職養成機関として、人々の健康増進を図る上でも取り組むことに大きな意義があることとして始まったものであります。

このキャンペーンが成果を上げるためには、何よりも学生の理解と協力が不可欠であり、今後とも啓発に努めていくつもりです。キャンパス内での学生の嗜好を制約することに様々な考えがあることは承知していますが、学生の皆さんには取り組み趣旨を踏まえて協力するようお願いするものであります。

平成15年度新入生合宿研修…… 「禁煙セミナー」を開催して

看護学科助教授 大関 信子

喫煙は重大な健康問題です。また、その健康被害が社会の中で十分に理解されていないことは、さらなる深刻な問題です。母性看護領域では、喫煙が妊婦や胎児・新生児にも悪影響を及ぼすことが科学的 evidence (根拠) により明らかにされています。が、妊婦やその家族に禁煙させることは容易ではない、という問題を抱えています。近年の研究では、若年であればあるほどニコチン中毒になる期間が短く、また、意思の力で中毒を絶つことは難しいことがわかってきました。

今回、新入生に禁煙の話をする機会が与えられたことは幸いだと思っています。過去に、大学に入学してから喫煙を始める学生がみられ、早期予防策の重要性を痛感していたからです。他の薬物中毒同様、タバコは「『最初の一口』を絶対に口にしない」というメッセージを伝えたかったのです。また、健康推進をはかる専門職者の喫煙は、タブーとみなされる社会状況となったことも伝えておきたかったのです。

幸い、新入生は、真剣に話を聞いてくれました。ありがたいと思っています。親元を離れ、一人の自由でままな生活を楽しんでいる学生さんも多いと思います。しかし、自由と同時に自律 (self control) 能力も求められています。自分を律しながら健康で充実した生活を送ってもらいたいと願っています。また、親と同居している学生さんもいますね。喫煙習慣のある家族はいませんか？健康の専門家として、なぜ喫煙が体に悪いか説得していますか？

愛する人が、健康を害して苦しんだり、死別するのは悲しいことです。私の父も、お酒は飲みませんでしたがヘビースモーカーでした。小さい頃、タバコを買いに行かされたり、灰皿を片づけるのがとても嫌でした。父は50代で、明け方、心筋梗塞で、一瞬のうちに亡くなりました。私の子どもたちはおじいちゃんの顔も愛情も知りません。父も孫を膝にのせたりしてかわいがることもなく死んでいきました。

私たち看護や医療に携わる仕事は素晴らしいと思います。このような (小さな) 不幸を未然に防ぐことができます。私もこれから禁煙教育に力を入れていきたいと思っています。皆さんも、禁煙教育の輪を広げ、たくさんの人を幸せにすることができれば、と心から願っています。



平成15年4月15日(火)に、県総合健診センターの長澤一磨医師の講演が1年生全員、2～4年生、教職員約200人を対象にありました。タイトルは「大学生の性感染症および妊娠中絶の実態」— これだけは知っておきた



講師の長澤一磨医師

い性の知識一でした。長澤先生は、県立中央病院産婦人科部長、弘前大学臨床教授を経て今に至っており、この分野の専門家として知られ数多くの講演活動や実際の指導にあたっています。当日の講演内容に基づいて報告します。

この講演が持たれた経緯は、大学の定期健康診断にあたった医師から、月経不順や月経痛などを訴える学生が多いという指摘や、また保健室においても月経や性に関する相談が少なくなく、高校で性教育を受けているものの正しい性知識の必要性と、知識だけではなく日常の行動にそれが生かされいるとは言いがたい現状があることからでした。また、大学祭の公開ディベート「もし今妊娠したら、産む？おろす？」で活発な発言などがあったり、関心の高さが感じられたことも、本講演会が開催された理由であります。

講演の要旨をまとめると、①思春期・青年期男女の性の発達の特徴（解剖生理学的特徴、心理的特徴、性欲と性行動など）、②妊娠のメカニズム、生命誕生の神秘と感動、③現代の思春期・青年期の性行動の実際(性交体験など)、④人工妊娠中絶・避妊(10代の中絶数の増加など)、⑤思春期・青年期の性感染症の実態と感染予防（感染症の増加、無症状性感染症の拡がりなど）、⑥性教育イコール人間教育、などです。

いくつかのデータを挙げますと、性交経験率の推移について20年前と現代を比較すると年々増加していき、中学、高校、大学の男女ともそれぞれ約2%から4%、6～10%から24～27%、11～23%から50～63%と急増しています。その動機としては、愛しているから、遊び・好奇心、ただなんとなく、皆から遅れたくない、お酒をのんだうえ、お金がほしい、むりやりなどです。避妊に関しては、10年前と比較すると年々減少していき、男女とも約40%から20数%という数値が示されて

いました。

人工妊娠中絶については、経済的理由なら行なってもよい、母体の健康を損なう危険があるなら行なってもよい、望むなら行なってもよいが、20数%から40数%の意見ですが、どんな場合でも行なうべきではないという意見は数%に過ぎませんでした。青森県は、中絶率が全国平均より上回っていることもあり、人工妊娠中絶はその後の不妊症や心理的面への影響が大きいので、望まない妊娠の防止が大切であることが強調されていました。

最近の性感染症(STD, Sexually Transmitted Disease)については、無症候性感染が性行動に活発な若年層に拡がりつつあり、もっとも多いのは性器クラミジア感染症（尿道炎、子宮頸管炎などを起こし、不妊や子宮外妊娠の原因になる）であり、淋菌（尿道炎、精巣上体炎、子宮頸管炎など）、性器ヘルペスウイルス（陰部に潰瘍の形成、経産道感染でヘルペス脳症の発生など）、尖形コンジローム（がん発生との関係が疑われている）、梅毒（全身性慢性感染症）、HIV／エイズ（日和見感染である真菌症、原虫感染、肺疾患、ウイルス感染、腫瘍などを引き起こし、他のSTDに罹患しているとHIVにかかりやすい）、ヒトパピローマウイルス（子宮頸がんの原因）による感染症と続きます。このことに対しては、たとえばオーラルセックス、アナルセックスを含め、危険な性行動から生ずる性感染についての現状を知り、性感染症に対する正しい知識を身に付けなければなりません。ノーセックスは性感染症からの予防策ですが、性交渉を持つとしても無防備な性交は危険であること、感染した場合には、いのちとその人の一生に影響を与えることが多いということ、将来の家族の健康にも影響が及ぶことを覚えておかなければならないでしょう。

楽しく明るく充実した大学生活を送り、社会では保健医療福祉分野で活動を期待されている学生の皆さんは、今、青春そのものです。自らの倫理観、価値観を確立し、自立・自律でき、あるいはその準備がなされるように努力し、健康的な生活様式を身につけ、人を愛するところと責任ある行動がとれるように、毎日の生活を過ごすことが大切だと思います。

進学相談会を8会場で開催

学生募集対策の一環として、開学年度から参加してきた進学相談会も、今年度で5回目となりました。

進学相談会は、大学の教育内容や取得できる資格、入試情報、就職実績、学生生活など大学選択に関わる重要な情報を大学教員から直接聞ける貴重な機会であることから、毎年、高校生、進路指導担当教員やご父兄の方等が多数訪れ、真剣に相談されますが、今年も多くの方が例年以上の真剣さで相談されていました。

昨年度までは県内外7箇所で開催しておりましたが、今年度は山形市を加え8箇所で開催し、その実施状況は下表のとおりでした。

平成15年度実施状況

(人)

開催日	場 所	相談者数	参加教員
5/19(月)	仙台市	22 (22)	4
5/21(水)	八戸市	70 (79)	6
5/22(木)	盛岡市	38 (37)	4
5/28(水)	函館市	25 (10)	3
5/30(金)	山形市	11 (—)	4
6/3(火)	秋田市	22 (20)	3
6/12(木)	弘前市	73 (43)	6
6/13(金)	青森市	42 (58)	8
計		303 (269)	

※相談者数の()は前年度数

今年度新たに開催した山形会場を除く7会場と昨年度と比較しますと、会場毎の増減はあるものの、総相談者数は23名増加しております。ちなみに、会場全体の入場者数は、昨年度の4,371人に対し今年度は5,438人と、千人以上増加しており、高校生等大学受験関係者にとって、進学相談会が重要な情報源として認識され、その傾向が益々高まっていることが感じられます。

大学PRの場としての進学相談会の重要性を改めて認識し、来年度以降の開催に挑みたいと思っておりますので教職員の皆様にはご協力方よろしくお願ひ申し上げます。



青森会場

オープンキャンパスへようこそ!



6月22日(日)、晴天の中開催されたオープンキャンパスは、盛況のまま無事終了することができました。

県内はもとより、北海道・東北各県からの参加者もあり、参加者数は昨年度より100名以上多い497名となりました。

今年度のオープンキャンパスは、午前の部は3学科がそれぞれの会場で「オリエンテーション」「学科ガイダンス」「学科のカリキュラム」「入試ガイダンス」「模擬講義」等を行い、午後の部は、キャンパスツアーとして、参加者が自由に見学や体験ができる各学科毎の「企画コーナー」や「相談コーナー」のほか、「イングリッシュ・カフェ」「インターネット体験コーナー」「サークル紹介」「大学紹介ビデオ上映」等、保健大学ならではの設備やキャンパス内の雰囲気を感じて頂けたことと思います。

いずれの会場でも、参加者が担当者の説明に熱心に耳を傾けていた姿を拝見できましたことは、私ども学生募集対策委員会メンバーといたしましても、また大学にとりましても感激ひとしおであります。

参加者の中には本学受験を既に決めていた方も多くいらっしゃると思いますが、ただの興味本位又は大学選択のための情報収集の一環という考えで参加した方も少なくないと推測されます。しかし、そのような方がこのオープンキャンパスを通じて本学に魅力を感じ、ひいては本学受験に繋がるとするならば、この上ない喜びであります。

最後に、今回の企画に当たった学生募集対策委員会の委員、そしてご協力いただいた教職員、またボランティアとして参加してくれました在学生の皆様へ、心からお礼を申し上げます。

人事異動

＜新任・転入等＞



人間総合科学科目 教授
松江 一 (マツイ ハジメ)

今までの研究生活とは異なる環境ですが、保健大学の理念一新たる未来一に魅力を感じています。目に見えない分子が体内で起こす作用の面白さや不思議さを伝えたい。面白いのだがなあー！構造式でアレルギーを起さないでね！！



人間総合科学科目 教授
藤田 修三 (フジタ シュウゾウ)

大学1年目の夏、社会人3年目の夏以来、三度目の青森です。今回はsmellに加えtasteします。今は「青い森のメッセージ」が浮いてきこえますが、生活者の視点で研究・教育に取り組み、いい歌だと実感したく思います。



人間総合科学科目 講師
Scott Vesty (スコット ヴェスティ)

ニュージーランド出身。NZのクライストチャーチ工科大学日本語学科卒。開学当初から授業講師として当大学に赴任。趣味はスポーツ、特に、サッカーとウエイト・トレーニング。



人間総合科学科目 外国人語学講師
Robert J. Leibowitz (ロバート リボウイツ)

Prior to coming to Aomori I practiced law in the Commonwealth of Pennsylvania and New York State for 23 years, so to come to Japan and to teach is a very new and interesting experience for me. I enjoy teaching and interacting with the students at AUHW. The staff and faculty have been very kind and have made my transition to both teaching and living in Japan smooth. My wife and I are both pleased to be teaching at AUHW and living in Aomori.



人間総合科学科目 助手
工藤 乃理子 (クドウ ノリコ)

静岡県から8年ぶりに青森県に戻ってきました。久しぶりの雪が心配の種ですが、これから仕事にがんばって行きたいと思いますのでよろしくお願ひします。



看護学科 講師
平尾 明美 (ヒラオ アケミ)

関西は神戸から、ここ青森の地にやってきました。今まで「北は山側、南は海側」が常識だったため体内のコンパスが少々狂ってます。そのうち戻ると思うのですが、迷っていたら看護学科に届けてください。



看護学科 助手
鄭 佳紅 (テイ ケイコ)

横浜生まれの横浜育ち。...といっても、青森ではなく神奈川です。縁あって、青森にまいりました。この機会に青森通になろうと県内のあちこちをうろろろしています。見かけたら是非お声をかけてください。



社会福祉学科 助教授
山内 修 (ヤマウチ オサム)

三十数年間の公務員生活の後、四月から初めての教員生活です。緊張感をそれなりに楽しんでいます。これからは、学生に知的な刺激を与えるとともに、学生からも刺激を貰う「共育」を実践出来ればと思っています。



事務局 事務局次長
鳥谷部 智 (トリヤベ サトシ)

テニスができて、図書館もあり素晴らしい職場環境で、一部から羨望のまなざしが注がれています。保健所、社会福祉研修所での経験を活かし、いささかなりとも大学の充実に貢献できればと思っています。



事務局 総務課主幹
其田 工 (ソノタ タクミ)

最近お気に入りの歌の歌詞に「NO. 1にならなくてもいい もともと特別なOnly one」というフレーズがある。このフレーズが現在の私の心の糧となっている。以上「ソノタク」の近況でした。



事務局 総務課主幹
成田 浩一 (ナリタ コウイチ)

教育、水産、農林、福祉等転勤を重ねてきましたが、いつも転動してから、あの時こうやればよかったとか後悔します。あと数年後に転動するときは、その後悔を少しでもして少なくして転動したいものです。



事務局 企画情報課主幹
深堀 満 (フカボリ ミツル)

小学生の頃、怖くて職員室に入れなかったような人間が、気がついてみると、こういうところで働いていたりするのですから、人生というのは油断がなりません。見かけは、楽しそうにしています(よく言われる)が、結構、毎日緊張してたりします。現段階での野望は、図書館でゆっくりと好みの本を探すこと。でも、いつになるのやら。



事務局 企画情報課総括主査
天内 孝志 (アマナイ タカシ)

情報システム担当です。4月からヨコモジと格闘してます。あと、学内の移動も。先日、C棟非常勤講師控室からB棟社福教員談話室まで(迷いながら)歩いたら息が切れました。少しは痩せるべが？



事務局 教務学生課総括主査
越前 美奈子 (エチゼン ミナコ)

週末の夜、すべての家事を済ませ、風呂上がりの体をビールで潤しつつ、時刻表と旅のガイドブックで空想の旅を楽しむ……すっかりオヤジ化した私の最近の楽しみにしているひとときです。



事務局 教務学生課主査
山本 アユ子 (ヤマモト アユコ)

A棟？B棟？〇〇研究室はどこ？と案内図を手に目的地を探した4月。空中散歩を楽しみ建物の間に咲く「おだまき」を見つけ嬉しくなった5月。そして今、学生一人一人の無事故を祈る毎日です。



事務局 教務学生課主査
今村 裕希子 (イマムラ ユキコ)

久々の大学。学生さんを見ていますと、音楽教師を目指していた頃を思い出します。2児の母となってからGピアノであまり弾く機会がないので、目立たないときにお借りしようかなと密かに思っています。



事務局 総務課主幹
今 美紀江 (コン ミキエ)

3年間を過ごした、たくさんの思い出が残るむつ市から出身地の青森市に戻ってきました。仕事は忙しいですが、職場の方々に助けられ、何とかこなしています。早く1人前に仕事ができるように頑張ります。



事務局 企画情報課主事
成田 智佳子 (ナリタ チカコ)

6年ぶりに車通勤となりました。2ヶ月経っても夫の愛車には慣れず、駐車場ではいつもドキドキハラハラです。何度もハンドルを切り返す姿を見かけたら温かい目で見守っていただければと思います。



事務局 企画情報課主事
鶴谷 恵子 (ツルヤ ケイコ)

就職して初めての人事異動で参りました。趣味は子供の頃からやっているピアノと就職してから学んだ水準測量です。日曜の優雅なひととき、紅茶を飲みながらピアノを弾き、レベルを見るのは本当にたまりません。皆さんと一緒にLet's水準測量!!

<昇任>

(15年4月)

看護学科教授 小山 敦代	社会福祉学科教授 露木 敏子
看護学科教授 山本 春江	社会福祉学科講師 鈴木 保己
看護学科助教授 益田 早苗	事務局 教務学生課長 竹澤 裕之
看護学科講師 吹田 夕起子	事務局 教務学生課主幹 石岡 俊一
看護学科講師 藤本 真記子	事務局 総務課総括主査 中嶋 朋子
理学療法学科助教授 佐藤 秀一	事務局 企画情報課総括主査 小野 由美
理学療法学科助教授 山下 弘二	事務局 教務学生課総括主査 上村 隆之
理学療法学科講師 三浦 雅史	

<転出等>

(15年4月)

環境生活部環境政策課 西北地方健康福祉こどもセンター 西北地方健康福祉こどもセンター 商工労働部商工政策課 健康福祉部自治体病院機能再編成推進チーム 青森県選挙管理委員会 総務部人事課 文化観光部国際課 東地方健康福祉こどもセンター 上北地方健康福祉こどもセンター 中南地方健康福祉こどもセンター (退職) (") (") (") (")	小山石康雄 (事務局次長から) 伊藤 貞一 (事務局教務学生課から) 大谷 順一 (事務局総務課から) 菅 牧子 (事務局教務学生課から) 吉田 誠 (事務局企画情報課から) 棟方 寿久 (事務局企画情報課から) 小笠原 徹 (事務局教務学生課から) 日野 智之 (事務局総務課から) 葛西 昭徳 (事務局総務課から) 須郷奈緒美 (事務局総務課から) 石井 僚 (看護学科助手) 阿部 俊枝 (理学療法学科助教授) 秋元 博之 (理学療法学科助教授) 江西 一成 (社会福祉学科教授) 米澤 國吉 (社会福祉学科助教授) 木幡 洋子 (社会福祉学科助教授)
--	--

[大学院・学部編入学] 平成16年度入学者選抜試験のお知らせ

青森県立保健大学では、大学院及び学部編入学の平成16年度入学者選抜試験を下記日程により実施します。詳しくは、大学院及び編入学の「募集要項」をご覧ください。

連絡先／教務学生課入試担当 TEL 017-765-2144 FAX 017-765-2188 E-mail nyusi@auhw.ac.jp

大学院（健康科学研究科修士課程）

募集人員	健康科学専攻……………20名 (○地域保健福祉学分野 ○理学療法学分野 ○生活健康科学分野 ○看護学分野)
出願期間	平成15年8月25日(月)～8月29日(金)
選抜試験	平成15年9月13日(土)
合格発表	平成15年9月24日(水)

学部編入学（健康科学部）

募集人員 及び 編入年次	<input type="checkbox"/> 看護学科……………10名(3年次編入)	出願期間	平成15年8月25日(月)～8月29日(金)
	<input type="checkbox"/> 理学療法学科…2名(3年次編入)	選抜試験	平成15年10月4日(土)
	<input type="checkbox"/> 社会福祉学科…4名(2年次編入)	合格発表	平成15年10月10日(金)

編集後記

今年は、第一期生の卒業、大学院修士課程の発足、健康科学研究研修センターの改組など、本大学にとって新たな一歩を踏み出した年といえます。本号はこの記念すべき年の最初の号ということで、新メンバーとなった広報委員会で知恵を絞りながら編集致しました。

「活彩！保健大学だより」がより良いものになるよう、皆様からの忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。（広報委員長／勘林秀行）

◎ 広報委員会委員：勘林秀行、赤坂和雄、吹田夕起子、鳴井ひろみ、吉川公章、竹澤裕之

◎ 記録専門部会：工藤乃理子、高橋佳子、桜木康広、八戸宏

◎ 広報担当事務局：其田工(対外広報担当)、山本アユ子(広報委員会事務担当)、根市茂美路(学内広報誌、広報委員会事務担当)

編集・発行／青森県立保健大学広報委員会（〒030-8505 青森市浜館字間瀬58-1 TEL017-765-2007）

バックナンバーはURLをご覧ください。 URL/http://www.auhw.ac.jp/